

# 公益社団法人新潟県栄養士会 2022 年度第 1 回理事会 議事録

## 1 日 時

2022 年 5 月 7 日（土） 午後 1 時 30 分から午後 4 時まで

## 2 開催場所

Zoom 開催及び新潟県栄養士会事務局 108 号室

## 3 理事数に対する出席理事の数

25 名中 21 名出席 本日の理事会は定足数を満たしている

## 4 理事の出欠について

折居 千恵子	○	石澤 幸江	○	渡邊 修子	○	三浦千枝子	×	北林 紘	○
和田 祥子	○	長谷川 美代	○	太田 優子	○	鷺頭 哲男	×	久志田 順子	○
高橋 睦美	○	熊倉 利江	○	池 多喜子	×	近藤 綾子	○	志田 奈緒子 (代理)	○
石澤 享子	○	植木 正子	○	大地 明美	○	関 芳美	○	本間 てるみ	○
江口 公子	○	小林 昌子	○	玉村 有里絵	○	奈良橋 深雪	○	永井 徹	○

## 5 その他関係者の出席

小島 美世 (健康づくり 支援課)	○	稲村 雪子 (顧問)	○	入山 八江 (顧問)	○	角谷ヒロ子 (監事)	○	蕪木 康子 (監事)	○
阿部 幸子 (事務局)	○	稲葉 有紗 (事務局)	○						

## 6 開会

折居会長挨拶

## 7 新潟県からの情報提供

○新潟県福祉保健部健康づくり支援課健康立県推進班 小島美世 政策企画員

今までの健康立県の取り組みについての概要と、今年度の政策について説明を受ける。

- ① 課題となっている認知度が上がっていない働く世代（無関心層）への働きかけを、SNS・ツイッター等を用いて情報発信を行っていく。
- ② 食環境づくりへの取り組みとして「からだ喜ぶデリ」に関してスーパーへの働きかけを行う。

- ③ 在宅推進事業での訪問栄養食事指導の件数を増やす事が難しいなか、方向転換が必要となってきた。今後は地域包括ケアシステムのなかでの取り組みを検討して頂きたい。
- ④ アジア栄養士会議が8月に開催。新潟県の減塩ルネサンス運動の報告を行う予定。

## 8 議長選出

○理事会運営規則第6条第1項に則り、理事会の議長は会長が務める。

## 9 議事

### (1) 協議事項

#### ①2021年度事業報告(案)について(資料1:1~21ページ)

○折居会長より説明があった。

- ・2021年度は4つの基本方針(高齢者対策、生活習慣病の発症・重症化予防、災害支援対策、ITを活用した会議や研修会の開催)に沿って事業展開を行った。
- ・2021年度もコロナ感染拡大の影響を受けた事業が多数あった。  
中止となった事業が公益1:11事業、公益2:8事業  
縮小開催 4事業  
集合型事業をDVD作成に変え工夫した事業2事業
- ・役員会をZoomに切り替えた支部・職域が増えた。
- ・Web配信による研修会が定着してきた。
- ・情報発信としてホームページに加え、インスタグラム、フェイスブックの活用を始めた。

○2021年度事業報告の総会への提案について承認された。

#### ②2021年度収支決算報告(案)について(資料1:22~35ページ)

○阿部事務局長が説明した。

2021年度全収入 35,892,103円、実績費 32,004,602円 差額 3,887,501円の黒字決算となった。

- ・生涯教育実務研修会の申込者の増加、オンデマンド配信による経費の削減が目立った。
- ・本部管理費においては会員数の大幅な減少による収入減、特定求職者雇用開発助成金の受取(約60万円の収入)、臨時雇賃金の抛出の減少(90万円)があった。
- ・定時総会では予算計上よりも抛出が多かった。原因は総会資料を郵送したためである。
- ・役員会におけるZoomの使用が増え旅費、会場費などの経費削減が大きかった。

○会務監査報告を角谷監事が行った。

○2021年度収支決算報告(案)の総会への提案について承認された。

#### ③地域における在宅ケアの今後あり方について

○石澤副会長より説明があった。

- ・地域における在宅ケア活動の在り方についての提案。

新潟県より在宅医療（栄養）推進事業のための補助金（約 900 万円）をもらっているが、訪問栄養指導の拡大に至らず 10 年目を迎えている。今後の方向転換が必要となっている。活動を支部単位から地域を拠点とし、地域個別会議、モデル訪問指導担当者、契約による訪問指導担当者、在宅訪問栄養指導実施医療機関栄養士と連携をとって進めていった方が良いと考える。

○折居会長より補足説明

地域で活躍している方たちを中心にワーキンググループで検討する。

○久志田栄養ケアステーション部長

支部でやっているところから地域で活躍している人たちと協力していきたいのでご協力をお願いしたい。

○地域における在宅ケアの方向性について承認された。

(2) 報告事項

① 2022 年度事業計画・予算について（資料 1：36～53 ページ）

阿部事務局長が説明を行った。

2022 年度の事業計画、及び収支予算は前回の理事会で承認を頂いているので、これを総会での議案として提出する。

2022 年度は会員数 1260 名で予算を計上しているが、現在入金済み会員数は 1081 名、新入会員 40 名のところ 25 名と厳しい状況である。会費の未入金者の納入を促し、及び新入会を勧めて頂きたい。

② 会員数について（資料 1：裏表紙）

阿部事務局長より説明があった。

2021 年度の会員数は前年度から 42 名減り、1257 名となった。会費-483,000 円の減収である。退会者 76 名のうち 60 歳以上が 40%近くおり、退会理由も「退職・高齢のため・栄養士業務から離れている」で 50%となる。若い方の入会を促してほしい。

③ 2022・2023 年度役員改選について（資料 1：52 ページ）

稲村役員選考委員より報告。

1 月 1 日付けにて全会員に告示され、25 名の理事候補が推薦・立候補された。

全候補者、役員選考規程における条件を満たされていることが報告された。

④ 2022・2023 年度日本栄養士会定時総会代議員について（資料 1：54 ページ）

阿部事務局長より報告。

2022 年 6 月 26 日日本栄養士会定時総会に出席する代議員は新潟県より 6 名+補欠 1 名が割り当てられたため、候補者を報告した。

⑤ 2022 年度新潟県栄養士会定時総会の開催について

渡邊副会長より説明があった。

今年度の定時総会はコロナ感染高止まり状況を鑑み、現理事と新理事候補者（一般会員として）の出席による縮小開催とする。

5 月 20 日頃を目途に総会資料を郵送、6 月 8 日までに委任状・役員選挙用紙を投函、または FAX にて送付頂きたい。

会員数の過半数以上を要するため、後日支部長・職域部長より会員への送付依頼をお願いする予定なのでご協力いただきたい。

⑥ 「あつまれ栄養士の森」開催について

阿部事務局長より説明があった。

4 月より Zoom を使ってテーマを決めて会員交流を目的に行っている。

1・2 回目は「Zoom を一緒に使ってみよう」参加者は各回 2～3 名ではあったが、今後の仕事に生かしたいとの発言をいただいた。

今後も根気よく続け、テーマごとに小グループが独り歩きしていってもらえるとありがたい。いろいろなアイデアを受付けたい。

○北林理事より

予算はかかっているのか。

腎臓に興味を持っている人を集めていきたいので、活用したいと思う。

○阿部事務局長より

予算計上はしておらず、経費はかかっていない。

企画をどんどん出してほしい。

⑦ 新潟大学健康教育イノベーションセンター設立について

折居会長より説明

新潟大学曾根博仁先生より研究センター設立の協力依頼があった。幅広く団体・個人と共に多くのビックデータを活用し健康寿命延伸、疾患の重症化予防を実現することを目的に取り組まれるということで新潟県栄養士会も後援させて頂くこと報告する。

(3) その他①

2020・2021 年度の事業展開の反省をもとに次期への提案

○北林理事 コロナで会員交流ができなかったもので、Zoom を利用しての会員交流を進めていきたい。

○和田理事 Zoom を取り入れて会員交流、研修を進めていきたい。

○長谷川理事 新潟支部において交流会に Zoom を用いて行ったが、非常に良かったので継続していきたい。

在宅訪問食事指導について、新潟支部はミニ勉強会を始めた。

今後も話し合いながら進めていきたいと考える。

- 太田理事 学術部において学会誌の投稿規程の作成に向けたワーキンググループでの活動を行っていききたい。
- 久志田理事 栄養ケアステーションにおいて在宅研修会は担当者のみの研修であったが、今年度は地域の療養者向け栄養ケアを行う方々に広げて行っていききたい。
- 高橋理事 会員交流ができるような研修会を行ってもらいたい。
- 熊倉理事 在宅ケアについて長岡できちんと取り組んでいく。
- 近藤理事 コロナ中での在宅栄養の推進・展開をどのようにやっていくか、また会員数が少ない柏崎支部においては会員増対策が課題となっている。  
子育て世代の会員の再入会できるような取り組みをお願いしたい。
- 志田理事代理 支部会を工夫しながら行っていききたい。また DVD 作成も継続していく。
- 石澤理事 コロナ禍で役員会、研修等を書面を使って工夫して行うことができた。
- 植木理事 今度在宅指導の人材発掘を行っていく必要あり。
- 大地理事 コロナ禍で活動がうまくいかなかったが、今後 Zoom を利用して進めて行くことを伝達する。
- 関理事 4 期携わってきたが、今後職能団体として力を発揮してほしい。
- 本間理事 昨年集合型で研修会を行ってきたが、時間が足りず残念だった。2022 年度は終日開催を計画しているが、効果的な運営について考えていききたい。  
会員減対策として、高齢者会員のためにも事務局だよりの発行を毎月お願いしたい。県栄 HP の利用した情報発信を行いたい。
- 江口理事 STEP-00 研修を経験年数 1～10 年と幅を広げて開催予定。  
役員会そのもののベース作りを行っていく。
- 小林理事 2021 年度はハイブリッド型で研修を行うことができたが、会員の参加が少なかった。会員のニーズに合わせた研修を考えていく。2024 年の医療・福祉同時改定を踏まえ、誰にでもわかる報告書の作成などのスキルアップを図っていく。  
連絡網の整備を行っていく。
- 玉村理事 学校教育の中で ICT 活用が求められてきている。タブレット端末を使った授業が求められているところ、より良いものにしていけるよう考えていかねばならない。
- 奈良橋理事 小さい事業部なので、新体制のなか全員で取り組んでいききたい。
- 永井理事 研修部長として、オンライン研修の利点を確認できた。さらに対面の価値も理解できた中で、オンラインとの併用をうまく行っていく必要がる。

その他② 「支部体制はこれから変わって、なくなっていく可能性はあるか？」の質問について  
折居会長より

支部の見直し検討会議というワーキンググループで検討してきたが、昨年度はコロナ禍のため中断した。今年度より再開し、公益事業を考慮しながら、地域包括システムに合致するにはどうしたらよいかを検討していく予定。

10 議事終了あいさつ（渡邊副会長）

上記の議事録に相違ないことを証するため、記名、押印する。

2022年5月7日

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席代表理事 印

出席監事 印

出席監事 印

議事録作成者 事務局長 阿部 幸子